

長足胸短 近づく

I. 調査の概要

この調査は、児童・生徒及び幼児の発育並びに健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

調査の対象は、国・公・私立の小学校・中学校・高等学校及び幼稚園のうち、調査実施校に指定された学校に在籍する満5歳から17歳(昭和60年4月1日現在)までの児童・生徒及び幼児(以下「児童等」という。)の一部です。

調査事項は、児童等の発育状態(身長・体重・胸囲・座高)と健康状態(視力・聴力・眼・耳鼻いん頭・歯・内科的疾患等)で、昭和60年4月から6月までに各学校が実施した、学校保健法による健康診断の結果に基づくものです。

この調査における標本抽出の方法は、確率比例抽出法により行い、調査対象者数は表-1のとおり

表-1 調査対象者数

区 分	学校総数 (A)	調 査 実施校 (B)	抽 出 率 (B/A) (×100)	児童・生徒・ 幼児(5歳 児)の総数 (C)	発 育 状 態		健 康 状 態	
					調 査 者 対 象 者 (D)	抽 出 率 (D/C) (×100)	調 査 者 対 象 者 (E)	抽 出 率 (E/C) (×100)
計	1,380	194	—	552,818	14,442	—	28,162	—
幼 稚 園 (5歳児)	442	35	7.9	29,623	1,401	4.7	2,029	6.8
小 学 校	595	60	10.1	276,207	5,681	2.1	11,527	4.2
中 学 校	222	40	18.0	135,599	4,693	3.5	9,054	6.7
高 等 学 校	121	59	48.8	111,389	2,667	2.4	5,552	5.0

(注) 1. 学校総数及び児童等の総数は、昭和59年5月1日現在のものである。
2. 幼稚園の調査対象者は、5歳児のみである。

りです。

なお、調査結果の数値は概数であり、後日文部省から発表される公表値をもって確定数となります。

II. 調査結果の概要

1. 発育状態

(1) 体格の県平均値と男女の差

昭和60年度の身長、体重、胸囲及び座高の平均値とその男女の差を学校種類別及び年齢別にみると表-2のとおりである。

表-2 年齢別身長・体重・胸囲・座高の平均値と男女差

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			胸 囲 (cm)			座 高 (cm)			
	男	女	差	男	女	差	男	女	差	男	女	差	
幼 稚 園	5歳	110.7	110.0	0.7	19.4	19.0	0.4	56.8	55.5	1.3	62.8	62.3	0.5
	6歳	116.5	115.5	1.0	21.8	20.9	0.9	58.6	56.8	1.8	65.2	64.7	0.5
	7歳	121.9	121.2	0.7	24.1	23.5	0.6	60.4	59.0	1.4	67.6	67.2	0.4
小 学 校	8歳	128.0	127.1	0.9	27.0	26.5	0.5	62.9	61.5	1.4	70.2	69.8	0.4
	9歳	132.7	132.9	△0.2	30.1	29.9	0.2	65.3	64.1	1.2	72.2	72.3	△0.1
	10歳	138.0	139.2	△1.2	33.1	34.0	△0.9	67.4	67.2	0.2	74.5	75.4	△0.9
	11歳	142.9	145.1	△2.2	36.5	38.3	△1.8	69.6	70.8	△1.2	76.5	78.4	△1.9
中 学 校	12歳	150.2	150.9	△0.7	42.4	44.2	△1.8	73.5	75.6	△2.1	79.9	81.3	△1.4
	13歳	157.5	153.9	3.6	47.8	47.2	0.6	77.0	77.5	△0.5	83.5	83.0	0.5
	14歳	163.6	156.2	7.4	53.8	50.5	3.3	80.5	79.9	0.6	86.9	84.4	2.5
高 等 学 校	15歳	167.6	157.0	10.6	58.5	52.6	5.9	83.2	81.4	1.8	88.8	84.8	4.0
	16歳	168.8	157.3	11.5	59.6	53.3	6.3	84.7	81.9	2.8	89.5	84.7	4.8
	17歳	170.1	157.5	12.6	61.7	52.4	9.3	86.2	81.8	4.4	90.2	84.6	5.6

(注)「差」は男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

昭和60年度学校保健統計調査結果から

発育状態がピークに達すると思われる17歳(高等学校3学年)の体格について、県平均値をみると、男子は身長170.1cm、体重61.7kg、胸囲86.2cm、座高90.2cmとなっており、女子では身長157.5cm、体重52.4kg、胸囲81.8kg、座高84.6cmとなっている。これに関して昭和35年度から25年間の身長推移をみると、男子で昭和58年度170.9cmと過去最高の伸びとなったが、本年度は前年度同様伸び悩んでいる。(図-2)

男女の体格差を年齢別にみると、身長及び座高は8歳まで、体重は9歳まで、胸囲は10歳まで、男子が女子の体格を上回っているが、その後身長と座高は9歳~12歳、体重は10歳~12歳、胸囲は11歳~13歳で女子が男子を上回るようになり、その差の最も大きいのは、身長では11歳で2.2cm、体重では11歳~12歳で1.8kg、胸囲では、12歳で2.1cm、座高では11歳で1.9cmとなっている。

しかし、この時期を過ぎると再び男子が女子の体格を上回り、その差は17歳で最大となり、身長で12.6cm、体重で9.3kg、胸囲で4.4cm、座高で5.6cmとなっている。(表-2)

また、身長と体重のつり合いを、過去10年間の

図-1 男女別17歳のローレル指数 (昭和51年度~昭和60年度)

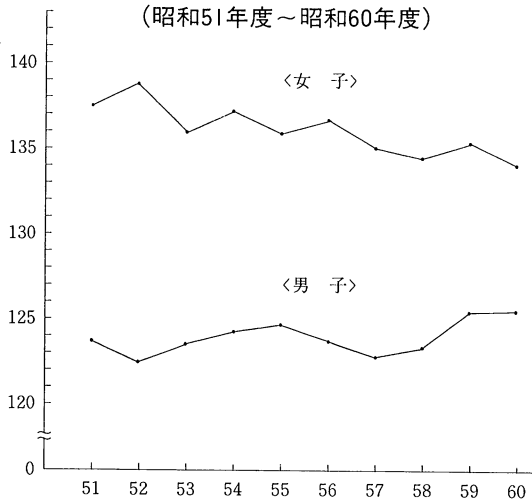
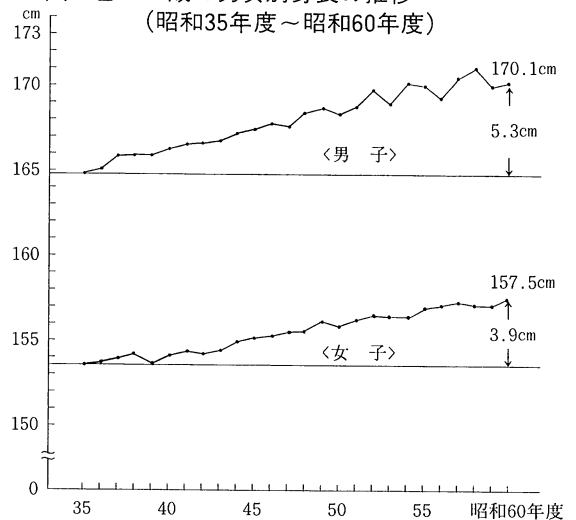


図-2 17歳の男女別身長の推移 (昭和35年度~昭和60年度)



17歳の生徒についてローレル指数[※]でみると、男子は前年と同じであり、女子は減少傾向にある。(図-1)

※ローレル指数とは、体重(g)を身長(cm)の3乗で割り1万倍したもので、個人差はあるが、指数が高くなるにつれて肥満の傾向が強まるとされている。指数160以上が肥満児で、女子は一般に男子より高い指数値を示す。

(2) 25年前(昭和35年度)の体格との比較

昭和60年度の身長、体重、胸囲及び座高を親世代の25年前と比較してみると表-3のとおりである。

身長、体重及び胸囲はすべての年齢において昭和35年度より向上しているが、特に中学校男子の体格が大幅に向上している。

また、座高は16歳~17歳女子で昭和35年度の方が高く、全体的にみると、身長の伸びに対して座高の伸びは小さくなっている。したがって、身長から座高を引いた下肢長の伸びが大きく、足長のスマートな体格に近づいている。

男女別に25年前の体格との差が最も大きい年齢をみると、男子については、身長、体重、胸囲及

■ 調査から

び座高のすべて、13歳でそれぞれ10.1cm、8.9kg、5.6cm、4.0cmとなっている。また、女子については、身長と座高では共に11歳でそれぞれ8.7cm、3.5cm、体重と胸囲では共に12歳で7.9kg、6.1cmの差となっている。

25年前の17歳の身長と体重との比較をみると、男子では、昭和60年度の15歳の身長(167.6cm)、体重(58.5kg)は、昭和35年度の17歳の身長(164.8

cm)、体重(55.5kg)を上回っており、男子の身長と体重の発育は、この間に2～3年早くなっている。また、女子についてみると、身長では昭和60年度の13歳(153.9cm)は、昭和35年度の17歳(153.6cm)を上回り、体重では昭和60年度の15歳(52.6kg)は昭和35年度の17歳(50.6kg)を上回っており、女子についても身長では4～5年、体重では2～3年成長が早くなっている。(表一3)

表一3 年齢別平均体位25年前との比較

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			胸 囲 (cm)			座 高 (cm)					
	昭 和 60年度	昭 和 35年度	差	昭 和 60年度	昭 和 35年度	差	昭 和 60年度	昭 和 35年度	差	昭 和 60年度	昭 和 35年度	差			
男	幼稚園	5歳	110.7	107.9	2.8	19.4	17.8	1.6	56.8	55.2	1.6	62.8	61.7	1.1	
		6歳	116.5	111.0	5.5	21.8	19.0	2.8	58.6	56.5	2.1	65.2	62.9	2.3	
	小学校	7歳	121.9	116.3	5.6	24.1	20.9	3.2	60.4	58.4	2.0	67.6	65.4	2.2	
		8歳	128.0	121.2	6.8	27.0	23.1	3.9	62.9	60.2	2.7	70.2	67.8	2.4	
		9歳	132.7	126.1	6.6	30.1	25.3	4.8	65.3	62.1	3.2	72.2	69.9	2.3	
		10歳	138.0	130.4	7.6	33.1	27.5	5.6	67.4	63.8	3.6	74.5	71.9	2.6	
		11歳	142.9	135.2	7.7	36.5	30.1	6.4	69.6	65.7	3.9	76.5	73.9	2.6	
	中学校	12歳	150.2	141.0	9.2	42.4	34.1	8.3	73.5	68.2	5.3	79.9	76.3	3.6	
		13歳	157.5	147.4	10.1	47.8	38.9	8.9	77.0	71.4	5.6	83.5	79.5	4.0	
		14歳	163.6	154.6	9.0	53.8	45.0	8.8	80.5	75.5	5.0	86.9	83.1	3.8	
	高等学校	15歳	167.6	161.1	6.5	58.5	50.9	7.6	83.2	80.3	2.9	88.8	87.1	1.7	
		16歳	168.8	163.7	5.1	59.6	53.8	5.8	84.7	82.2	2.5	89.5	89.0	0.5	
		17歳	170.1	164.8	5.3	61.7	55.5	6.2	86.2	83.9	2.3	90.2	89.8	0.4	
	女	幼稚園	5歳	110.0	106.3	3.7	19.0	17.2	1.8	55.5	53.7	1.8	62.3	60.9	1.4
			6歳	115.5	109.9	5.6	20.9	18.4	2.5	56.8	54.9	1.9	64.7	62.5	2.2
		小学校	7歳	121.2	115.2	6.0	23.5	20.3	3.2	59.0	56.9	2.1	67.2	65.0	2.2
			8歳	127.1	120.0	7.1	26.5	22.5	4.0	61.5	58.6	2.9	69.8	67.3	2.5
9歳			132.9	125.4	7.5	29.9	25.0	4.9	64.1	60.7	3.4	72.3	69.7	2.6	
10歳			139.2	130.8	8.4	34.0	27.9	6.1	67.2	63.0	4.2	75.4	72.4	3.0	
11歳			145.1	136.4	8.7	38.3	31.3	7.0	70.8	65.8	5.0	78.4	74.9	3.5	
中学校		12歳	150.9	142.8	8.1	44.2	36.3	7.9	75.6	69.5	6.1	81.3	78.2	3.1	
		13歳	153.9	147.1	6.8	47.2	40.9	6.3	77.5	73.3	4.2	83.0	80.7	2.3	
		14歳	156.2	149.9	6.3	50.5	45.2	5.3	79.9	76.3	3.6	84.4	82.6	1.8	
高等学校		15歳	157.0	152.8	4.2	52.6	48.0	4.6	81.4	79.0	2.4	84.8	84.1	0.7	
		16歳	157.3	153.2	4.1	53.3	49.7	3.6	81.9	80.3	1.6	84.7	84.8	△0.1	
		17歳	157.5	153.6	3.9	52.4	50.6	1.8	81.8	80.8	1.0	84.6	84.9	△0.3	

2. 健康状態

(1) 主な疾病・異常の推移

過去5年間の主な疾病・異常の被患状況をみると表-4のとおりである。

「う歯」(むし歯)についてみると、幼稚園では昭和58年度から減少傾向にあるが、小学校・中学校及び高等学校といずれも本年度を含めて90%を上回り、高い被患率となっている。

「裸眼視力1.0未満の者」は、高等学校で減少傾向にあったが、本年度再び上昇し50%を超えている。

また、「へんとう肥大」については、学年が進むに従って低率となっている。その他の疾病・異常についてはこの5年間はほぼ同様な傾向となっている。

(2) う歯のある者

「う歯」のうち「処置完了者」と「未処置歯のある者」をみると、幼稚園ではそれぞれ13.3%と64.6%となっており、学年が進むにつれて「処置完了者」の割合が上昇している。(図-3)

(3) 裸眼視力1.0未満の者

裸眼視力1.0未満の者を学校種類別にみると、小学校17.5%、中学校30.7%、高等学校51.6%となっており、高学年になるに従って上昇している。(図-4)

(統計課・人口労働グループ)

図-3 「う歯」の処置完了状況等の割合

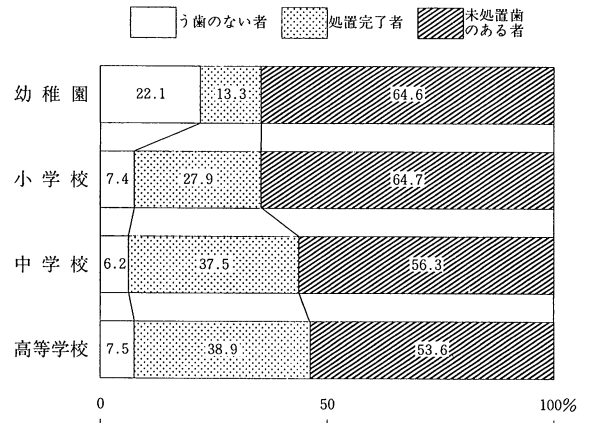


図-4 裸眼視力1.0未満の者等の割合

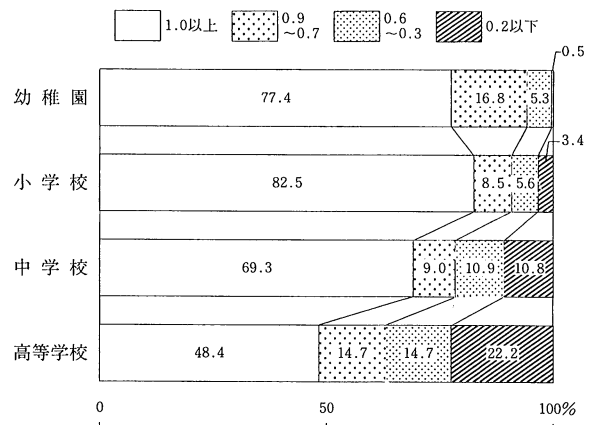


表-4 主な疾病・異常の被患率の推移

(%)

区分	幼稚園 (5歳)					小学校					中学校					高等学校				
	昭和56年度	57	58	59	60	56	57	58	59	60	56	57	58	59	60	56	57	58	59	60
う歯	88.6	92.0	88.1	86.4	78.0	94.2	94.0	93.5	94.7	92.6	94.7	95.8	94.2	93.0	93.8	96.9	96.4	96.1	96.2	92.5
裸眼視力1.0未満の者	18.0	14.0	19.7	41.9	22.7	17.1	14.3	14.5	15.7	17.5	30.0	31.0	28.5	33.0	30.7	50.8	48.1	47.0	45.2	51.6
鼻・いん頭炎	0.2	—	—	0.2	0.7	2.0	1.8	2.2	1.7	1.3	0.7	0.4	0.5	1.0	1.1	0.3	1.5	0.1	0.5	0.8
へんとう肥大	8.1	7.5	10.0	10.1	7.2	4.9	7.8	6.3	5.5	6.5	4.0	3.0	3.1	3.8	2.7	1.8	1.4	1.5	1.9	1.9
寄生虫卵保有者	4.7	4.4	2.9	2.9	3.2	3.5	2.8	3.3	3.2	2.7
結膜炎	0.2	0.2	—	0.1	—	0.5	0.7	0.9	0.4	0.4	0.7	0.6	1.0	0.3	0.3	0.7	0.5	0.5	0.6	0.4
肥満傾向	0.6	0.5	0.7	0.2	1.1	1.3	1.6	1.5	1.0	1.5	1.5	1.4	1.7	0.7	1.4	0.3	0.5	0.4	0.1	0.8
蛋白検出の者	0.8	0.4	—	1.0	0.1	0.5	0.4	0.3	0.9	0.4	1.6	1.5	1.3	0.9	1.0	0.9	1.1	0.9	1.1	0.3

(注) 1. 「—」 零または表章単位未満。 2. 「…」 調査対象外。 3. 抽出数が少数のため学年別には未集計。